

長崎県観光動向調査

(平成22年1～3月分)

主要指標

	対象施設	延宿泊客数 利用者数	対前年同期比	
			増減率	増減数
主要宿泊施設	166	896千人	+3.2%	+28千人
主要観光施設	22	1,310千人	+7.8%	+95千人
西海パールリゾート、 原の辻展示館を含む24施設		1,490千人	+17.9%	+226千人

()主要観光施設の動向については、「西海パールリゾート」における九十九島水族館の開業(21年7月)、「一支国博物館」の開館(22年3月)の影響が大きいため、両施設を除いた22施設の合計値を主要観光施設利用者数としている。

概況

主要宿泊施設の宿泊客数は、平成21年7～9月期以来、2期ぶりに増加に転じ、1～3月期全体で3.2%増となった。

主要観光施設の利用者数についても、平成21年7～9月期以来、2期ぶりに増加に転じ、1～3月期全体で7.8%増となった。

増減の主な要因としては、次のポイントが考えられる。

- ・ 昨年大幅に減少していた反動が見られたこと
- ・ 世界的な景気後退と円高の影響から大幅に減少していた外国人観光客が回復の兆しを見せていること

主なブロックの動向

【長崎・西彼ブロック】

ランタンフェスティバルの集客が前年を10万人近く上回ったこと、大河ドラマ「龍馬伝」の効果が一部に見え始めたことなどから、宿泊客数は対前年10.4%増となった。

【佐世保・西海・東彼・北松ブロック】

昨年まで大幅に減少していた外国人観光客が急速に回復していることが主な要因となり、宿泊客数は1.6%増となった。

【島原半島ブロック】

小浜温泉の足湯「ほっとふっと105」オープンなどの話題はあったものの、正月の日並びが昨年と比べて悪かったことなどから、宿泊客数は増加には至らず、対前年1.8%減となった。

【対馬ブロック】

昨年12月から韓国人観光客が増加に転じていることが主な要因となり、対前年16.1%増と大幅な伸びを示した。

観光圏等による広域連携の取り組みや市町合併等の動向を反映させるため、地域ブロックの区割りを見直した。各ブロックの構成市町は以下の通り。

長崎・西彼：長崎市、長与町、時津町

佐世保・西海・東彼・北松

：佐世保市、西海市、東彼杵町、川棚町、波佐見町、佐々町

平戸・松浦：平戸市、松浦市

諫早・大村：諫早市、大村市

島原半島：島原市、雲仙市、南島原市

五島：五島市、新上五島町、小値賀町

壱岐：壱岐市

対馬：対馬市

(参考) 外国人観光客の動向 (ご協力いただいた施設のためのサンプル調査)

外国人宿泊客数は、昨年までの減少傾向から一転して増加に転じ、前年同期に比べ50.9%増加した(参考資料)

韓国からの観光客は、円高で推移した為替レートの影響などにより昨年1～3月期は大幅に減少していたが、今年はその反動もあり大幅に増加した。

「春節」の時期の変動(去年は1月、今年2月)により、中国、台湾からの観光客は1月には減少する一方、2月は増加している。

